

# 朝日ヶ丘公民館だより 4・5月号

TEL 043(272)4961 FAX 043(271)6994 ✉ asahigaoka@ccllf.jp

「つどい まなび つなぐ ～地域の皆様に愛される 地域主体の公民館をめざして～」

## 「五事を正す」 —中江 藤樹の言葉—

館長 長谷部 芳彦

「貌」(ぼう)

和やかな顔つきで人と接する

「言」(げん)

思いやりのある温かい言葉で話す

「視」(し)

澄んだ目で物事を深く見つめる

「聴」(ちょう)

よく耳を傾けて人の話を聴く

「思」(し)

真心を込めて相手のことを思う

五事とは「貌、言、視、聴、思」(ぼう・げん・し・ちょう・し)を言います。

陽明学者の中江藤樹は、普段の生活やまわりの人々との交わりの中で、自ら五事を正すことが、良知をみがき、良知に到る大切な道だとしています。

陽明学は、朱子学(朱子学とは、中国、南宋の朱熹が大成した新しい儒学で、日本では江戸幕府から官学として保護されました。)の批判から出発し、時代に適応した実践倫理を説きました。心即理・知行合一・致良知を主要な思想としています。

中江藤樹は江戸時代初期の儒学者で、日本陽明学派の祖とも言われています。初めは朱子学を修め、のちに、陽明学を最初に唱えて、近江聖人と呼ばれました。才能豊かな人でありながら、黙々と地道な生涯を送ったということです。

ちなみに、致良知とは、「人はだれでも「良知」という美しい心を持って生まれている。この美しい心は、誰とでも仲よく親しみ合い、尊敬し合い認め合う心。ところが人々は、次第に醜い色々な欲望が起きて、つい良知をくもらせてしまう。自分の醜い欲望に打ち克って、良知を鏡のように磨き、その良知に従い行いを正しくするよう日々努力することが大切である。」という考えです。

知行合一とは、「人々は、学ぶことによって、人として行わなければいけない道を知ることができる。しかし、学んだだけで、それを行わなければ、ほんとうに知ったことにはならない。物事をよく理解し、実行してこそ初めて知ったことになる。」という考えです。

いよいよ、令和2年度の公民館運営が始まりました。どうぞ今年度もよろしく願いいたします。

一人一人の職員がご利用者の皆様を第一に考え、「五事を正し」職務を務めてまいります。

「貌」(ぼう)和やかな顔つきでご利用者様と接する。「言」(げん)思いやりのある温かい言葉でご利用者様と話す。「視」(し)澄んだ目で物事を深く見つめる。「聴」(ちょう)よく耳を傾けてご利用者様の話を聴く。「思」(し)真心を込めてご利用者様のことを思う。これらのことを職員一人一人が心して地域の皆様にご対応できれば、きっとよりよい公民館になることと思っています。

公民館運営についてお気づきのことがあれば、遠慮なく職員にお話してください。